

# 衣食住など生活の支援を行う事業



## －だいじょうぶ（栃木県）－

特定非営利活動法人だいじょうぶは、栃木県において、家庭生活が不安定な中高生に対して、サポート合宿等を実施し生活支援・訓練を行っています。

基金を活用した事業では、「通学型チャレンジ合宿」を実施し、延べ24人の中高生が、適切な人間関係や生活習慣のフォローを行い、子どもたちの社会性を育みました。

## 子供の未来は日本の未来

### 子供との1対1の対話を大切に

だいじょうぶは、相談事業を核に、困窮や虐待、親の病気等の理由で安心して家で暮らせない子供たちと、その家族に寄り添う取組を行っています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、生活習慣や人間関係を学ぶことを目的に、放課後に団体が運営する施設に宿泊する「通学型チャレンジ合宿」を実施しました。

子供の生活リスクとなるのは「家族関係の貧困」です。人間関係に課題がある子供は不登校になりやすく、また、限られた人間関係の中で不適切な関係性を身につけ、将来「関係性の貧困」に陥るリスクが高まると感じています。

そうならないよう、職員との1対1の対話を重視しながら、スタッフや仲間と寝泊りし、適切な人間関係や生活習慣を身につけ、子供たちの社会性を育むことに繋げていくことを目指しています。

学校に行きたいという意思があっても、何かが重なって行けなくなってしまう。成功体験を積める機会があっても、それを逃してしまう。そうした子供たちの自己肯定感を高めるような自然体験チャレンジも週末に実施しました。

参加した子供たちからは、

「家事を皆で分担してやったが、こんなに大変だとは思わなかった。親は大変だったんだな…と思った。」

「合宿中はのびのびと生活ができた。家では一人なので、年の近い兄弟ができたようで楽しかった！」

などの声が寄せられました。

このチャレンジ合宿等を通じて、不安定な家庭で過ごす中高生は自己否定や環境否定があり「生まれ変わりたい!」という願望を強く持っていることも再認識しました。

仲間やスタッフの皆と、共同で生活することは、普段家族の中でうまくコミュニケーションがとれていなかったり、感情を吐き出す場がない子供たちにとって、とても貴重な時間なのだと感じました。

今後は、「通学型合宿」と「自然体験チャレンジ」に、小さい子どもとふれあいボランティア活動を組み合わせ、家庭生活に不安を抱える子供たちに、さらなる生活習慣や人間関係の育成と、自尊心の向上につながる取組を展開していきたいと思えます。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他



## －フードバンク福岡（福岡県）－

特定非営利活動法人フードバンク福岡は、危機的な状況にある家庭やシングルマザーへ食品を提供しています。また、単に食べ物を提供するだけでなく、食べ物を通じて人と人が繋がり、お互い助け合える社会を作ることを目的としています。

基金を活用し子供支援団体77団体、延べ2,803人に41.3トンの食品を提供しました。

### 子供の未来は日本の未来

## もったいないをなくし、子供たちの未来を創る

フードバンク福岡は、まだ食べられる食品が多く捨てられている現状において、企業や農家あるいは個人から食品を提供してもらい、それを必要としている生活困窮者や福祉施設への支援として、活用することを目的に設立されました。

小・中学校では朝ごはんを食べてこない子供や、危機的な状況にある家庭の存在が顕在化しつつあります。こうした状況の下、子供食堂やボランティア団体、シングルマザーや学校へ食品提供を行ってきました。

子供の未来応援基金を活用し、地域や学校とともに連携を深めながら、フードバンク活動の拡充を行い、未来を担う子供たちの健全育成につなげることに取り組みました。

また、福岡市東区地域において全国で初めて商業施設内にフードバンクの拠点を作ることができました。

この結果、日常的にフードバンクに触れる環境ができたため、地域、行政、社会福祉協議会等への周知と連携が深まり、子供たちへの支援の活性化に結びつきました。

食品を受け取ったシングルマザーの方からは、

「子供を預けるところがないため、結局仕事を辞めて子供の面倒を見ることに決めた。経済的にも厳しい状況となっていたところ、食品を提供していただき本当に助かった。今後も継続してほしい。」

などの声をいただきました。

また、子供食堂に来た子供たちからも、

「おうちではこんなに好きなものを食べられないので嬉しい。それも、こうやって食材を分けてくれる人がいるおかげだと知って、すごいことだと思った。好き嫌いせず、残さず食べようと思った。」

との声も届きました。

基金の支援を受ける前の成果は、子供支援団体27団体へ15.8トンの食品提供だったのに対し、基金の支援を受けたことにより、子供支援団体77団体へ41.3トンになり、拡充することができました。

今後の取組としては、企業だけでなく家庭からも食品を集めるフードドライブ事業を行うとともに、食品を必要とする子供のいる家庭への食品提供をさらに行き渡らせるため、地域連携強化を目的とした情報交換事業も行います。

フードバンク活動は、まだ始まったばかりです。子供たちへあたたかい目を向ける地域の方々と、子供たちのよりよい未来を創る仲間として、これからも地域のみんなや関係者一体となって取り組んでいきたいと考えています。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他

# 児童又はその保護者の就労を支援する事業

学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他



## －ウイズアイ（東京都）－

特定非営利活動法人ウイズアイは、東京都において、在宅で虐待等のリスクを抱えた親子家庭を対象に、一時保育・夜間保育・お泊り保育の場を提供しています。

基金を活用した事業では、日・祝祭日に40世帯に対して、年間延べ240人の子供の一時保育を行い、シングルマザー等の就労支援につなげました。

## 子供の未来は日本の未来

### 保護者が安心して就労できる環境を

ウイズアイの活動拠点である、東京都清瀬市は、核家族が多く、周辺地域に比べて女性の就労率が高いのが特徴です。保育の在り方は、保護者の働き方に最も影響を及ぼし、虐待予防のためにも24時間対応可能な窓口を設けておくことが、保護者の就労支援に繋がると私たちは感じています。

育児困難家庭の支援の目的は、母子を引き離すことではなく、子供の安全を確保するとともに、親には一時的なレスパイトの場を提供し、就労しながら再び子育てに向かえるように、きめ細かい伴走型のケアをすることです。

母子分離をただけでは、親子の愛着関係を損なう可能性もあり、根本的な解決には、親に十分な休養に加え、親自身の力を引き出すという視点が重要であると考えています。

子供の未来応援基金から支援を受けて実施した一時保育事業では、日・祝祭日を含めた24時間緊急保育まで広げ、保育園の一時保育やファミリーサポートだけでは解決できない、保護者のニーズに応えられる環境を作りました。

特にシングルマザーの利用が多く、保育園開園時間以外に就労せざるを得ない状況の家庭のお子さんを預かることで、子育てをしながら安心して就労することのできる環境向上の一助とすることができたと実感しています。

また、親の体調不良時に、親子で一緒にレスパイトを目的に宿泊できるシステムも構築したことは、頼るところの少ない親子の安全・安心な居場所にもなりました。

利用した保護者の方々からは、

「体調が悪い時に子供たちを見てもらえて本当に助かった。ひとり親でも『助けて』と言えたことが何より嬉しかった。」

「この一時保育があったから、仕事と育児が両立でき、子供への愛情もさらに深まったと感じている。」

など、本事業を通じて多くの感謝の言葉をいただきました。

今後も、日・祝祭日・夜間等含めた一時保育を通じて、育児困難家庭の保護者やシングルマザーが安心して就労できる環境を作り、保護者の就労支援に結び付けていきます。

